

決に向けて国や道などへ支援の要請を図るとともに、関係機関と連携を図りながら必要な支援策を講じてまいります。

農業については、農林水産業担い手支援制度などを利用した担い手が育ちつつあり、現在、地域おこし協力隊を含め2名の方が農業を学んでおり、今年度は新たに1名の新規担い手を支援することとしております。

今後も担い手が希望をもって就農できるよう、昨年度から策定を進めている「福島版営農モデル」に基づき、関係機関等と連携のうえ支援体制を確立してまいります。なお、若手農業者を中心とした認定農業者の確保に努め、効率的な農業経営への転換を図ってまいります。

有害鳥獣駆除については、毎年一定の捕獲成果を上げているにも拘らず農林業被害は減少していない現状にあります。なお、当町においては、特にシカによる被害が拡大している傾向にあり、町単独での駆除と併せ、知内町と共同で実施している集中捕獲を効率的に実施してまいります。

林業については、町有林の

うち、伐期を迎えた山林の搬出間伐を中心に施業を進めてまいります。また、民有林につきましても、補助制度の活用を図りながら施業のPRに努めるとともに、森林組合と連携した事業の掘り起こしを進めてまいります。

なお、森林組合につきましても、総合調整を実施することで、新年度の総会において一定の方向性が整理され、今後予定されている再建・振興計画が明らかになった段階で、町の支援策をまとめ上げることで作業を進めております。

商工業については、現行の中小企業融資制度の更なる利用促進に向けてPR活動を強化してまいります。また、商工会によるプレミアム商品券の発行事業については、今年度も引き続き支援するとともに、経営改善普及事業・商店街にぎわい創出事業等の支援により、地元経済の活性化を図ってまいります。

観光については、町民の有志により新たに組織された「一般社団法人福島町まちづくり工房」を中心に、千軒岳や岩部海岸及び青の洞窟など地域の潜在的資源を活用し、新た

な観光開発を開発することとしております。

また、これらの活動の中心母体となる福島町観光協会事務局体制については、地域おこし協力隊を活用しながら充実を図ってまいります。

交流人口の増加に向けて、殿様街道探訪ウォーク、そばの花観賞会並びに新そば祭りなどのイベントの充実を図るとともに、福島町を訪れた方々に新たな案内表示として青函トンネル記念館敷地内に総合案内板を設置することとしております。



横綱の里づくり事業については、横綱記念館が開館20周年を迎えることから記念事業

を開催し、年々増加傾向にあるインバウンドに対し、日本の伝統文化と触れあえる機会を多くすることで交流人口の増加を図ってまいります。

また、蝦夷地測量のため吉岡地区に上陸した伊能忠敬の没後200年を機に、銅像建設及び周辺整備に向けて、設計作業を進めてまいります。

### ■若者等の定住対策・子育て環境の充実

これまで経験したことのない日本全体の人口が減少に向かう中で、当町の人口も減少しており、若者等の定住対策及び子育て環境の充実を図ることが、町の維持発展に欠かすことができない要素であり、引き続き地域全体で子育てを支援するため、保育料等や給食費の完全無料化、出産祝金、高校生までの医療費無料化及び定住促進住宅等奨励事業を継続してまいります。

認定こども園については、子育て支援センター機能の充実が図られたことから、子育て中の保護者とその子供の交流の場を確保し、子育て世代

の居場所づくりに努めることので、安心して子育てができる環境の充実を図ってまいります。子育て世代が住みたいと思える定住住宅の整備に向け、

町内で建築業に携わっている方や若手町職員を中心に「定住促進住宅基本計画」を取りまとめましたので、今年度は平成30年度からの事業実施に向け、建設場所及び制度活用などの環境の整備を図ってまいります。

また、国の地方創生推進交付金を活用し、木古内町・知内町・福島町の3町で「移住・定住」に関する広域的取り組みとして、首都圏におけるPR活動を進めてまいります。

### ■がん予防対策の充実

「一人ひとり元気でいきいきと暮らすまち」を実現するため、「福島町健康づくり推進計画（いきいき健康ふくしま21）」に基づき取り組みを進めておりますが、今年度は、計画の最終年となることから関係機関と連携を図りながら見直し作業を進めてまいります。

町民が健康でいつまでもい